



## 平成25年7月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年9月5日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アルチザネットワークス  
コード番号 6778 URL <http://www.artiza.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長  
定時株主総会開催予定日 平成25年10月29日

(氏名) 床次 隆志  
(氏名) 清水 政人  
有価証券報告書提出予定日 平成25年10月29日  
TEL 042-529-3494

配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年7月期の連結業績(平成24年8月1日～平成25年7月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年7月期	1,064	△40.8	△322	—	△206	—	△208	—
24年7月期	1,798	54.4	88	—	119	—	114	—

(注) 包括利益 25年7月期 △195百万円 (—%) 24年7月期 118百万円 (—%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
25年7月期	△2,594.77	—	△6.5	△6.2	△30.3
24年7月期	1,422.35	—	3.5	3.4	4.9

(参考) 持分法投資損益 25年7月期 一百万円 24年7月期 一百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年7月期	3,358	3,092	92.1	38,454.98
24年7月期	3,576	3,288	91.9	40,882.92

(参考) 自己資本 25年7月期 3,092百万円 24年7月期 3,288百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
25年7月期	△68	182	△0	1,904
24年7月期	163	△172	△1	1,767

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
24年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
25年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
26年7月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

### 3. 平成26年7月期の連結業績予想(平成25年8月1日～平成26年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,850	73.9	103	—	111	—	108	—	1,342.83

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

25年7月期	95,620 株	24年7月期	95,620 株
25年7月期	15,193 株	24年7月期	15,193 株
25年7月期	80,427 株	24年7月期	80,427 株

(参考) 個別業績の概要

平成25年7月期の個別業績(平成24年8月1日～平成25年7月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年7月期	1,064	△40.8	△332	—	△215	—	△217	—
24年7月期	1,798	54.4	83	—	115	—	110	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
25年7月期	△2,699.75	—
24年7月期	1,378.97	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
25年7月期	3,365	3,079	3,079	3,079	91.5	38,285.06	38,285.06	
24年7月期	3,582	3,289	3,289	3,289	91.8	40,898.08	40,898.08	

(参考) 自己資本 25年7月期 3,079百万円 24年7月期 3,289百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表に対する監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本業績予想は、現在入手可能な情報から、当社の経営者の判断に基づき作成しております。従いまして、本業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えられるようお願い致します。また、実際の業績は様々な要因により本業績予想とは、異なる結果となり得ることをご承知おきください。なお、業績予想に関する事項は2ページをご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析 .....	2
(1) 経営成績に関する分析 .....	2
(2) 財政状態に関する分析 .....	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 .....	4
(4) 事業等のリスク .....	4
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	6
2. 企業集団の状況 .....	7
3. 経営方針 .....	7
(1) 会社の経営の基本方針 .....	7
(2) 目標とする経営指標 .....	7
(3) 中長期的な会社の経営戦略 .....	7
(4) 会社の対処すべき課題 .....	8
4. 連結財務諸表 .....	10
(1) 連結貸借対照表 .....	10
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	12
連結損益計算書 .....	12
連結包括利益計算書 .....	13
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	14
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	16
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	17
(継続企業の前提に関する注記) .....	17
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) .....	17
(連結貸借対照表関係) .....	18
(連結損益計算書関係) .....	18
(連結包括利益計算書関係) .....	19
(連結株主資本等変動計算書関係) .....	20
(連結キャッシュ・フロー計算書関係) .....	20
(セグメント情報等) .....	21
(1株当たり情報) .....	22
5. 個別財務諸表 .....	23
(1) 貸借対照表 .....	23
(2) 損益計算書 .....	25
(3) 株主資本等変動計算書 .....	26
6. その他 .....	28
(1) 役員の異動 .....	28

(\*) の記号がある用語につきましては、本項末尾の用語集で解説を付していますので、ご参照ください。

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

### (1) 経営成績に関する分析

#### ① 当期の経営成績

移動体通信分野では、LTEのサービスが世界各地で開始され、スマートフォン等多種多様なモバイル端末の普及により、移動体通信の更なる高速化・大容量化、サービス品質の向上に向けての研究開発及び設備投資が本格化していくことが予想されますが、通信品質の問題や、事業者間による加入者獲得競争、WiMAX等のサービスの展開により、通信事業者及び通信機器メーカーの競合状況は今後も一層の激化が予想されます。

また、固定通信分野におきましても光ファイバを中心としたブロードバンドサービスが進展し、IP化に伴うサービスの融合化が加速しております。スマートフォン等の普及によるネットワークトラフィックの増加により、ネットワークの負荷低減に向けた投資も行われており、ネットワークの更なる高速化・大容量化が求められております。

これらの技術や新サービスの導入に伴い積極的な研究開発投資が見込まれる一方で、サービスの低価格傾向は定着しており、通信各社の研究開発及び設備投資は選別的な姿勢が継続されるものと予想されます。

このような状況の中、当社グループでは、以下の営業、マーケティング及び研究開発活動を行いました。

- (i) LTEに対応する製品の開発及び販売
- (ii) LTEに対応する商材開拓及び販売
- (iii) 中国、韓国、欧州、インド、北米等の海外市場におけるLTE対応製品の市場開拓及び販売
- (iv) WiMAXに対応した製品開発・商材開拓及び販売
- (v) 第3世代移動体通信対応製品販売
- (vi) 次世代ネットワークに対応した製品開発・商材開拓及び販売
- (vii) LTE-Advanced (\*1) に対応する製品の開発
- (viii) 通信分野における新事業に向けたマーケティング及び研究開発

その結果、当連結会計年度におけるセグメント別の売上高は以下のとおりとなりました。

(モバイルネットワークソリューション) 865,887千円 (前期比44.9%減)

当セグメントの売上高は、865,887千円となりました。LTEのサービス分野では、事業者間による加入者獲得競争が激化しており、インフラ整備及びスマートフォン等の携帯端末への積極投資が行われております。しかしながら、国内のLTE大型基地局向け等の研究開発投資につきましては、依然として厳しい状況が継続しており、第3四半期連結会計期間において一定の実績を上げることができたものの、第4四半期連結会計期間で予定しておりました大型案件が次期に移動することになった結果、国内向けの売上高が前期比で大幅な減少となりました。また、海外向けのLTE対応製品の売上につきましては、ほぼ前期なみの実績を上げることができましたが、海外向け第3世代対応製品の販売が大幅に前年同期比で減少したことにより、モバイルネットワークソリューションの当連結会計年度における売上高は、前期比で44.9%の大幅な減少となりました。

(IPネットワークソリューション) 198,161千円 (前期比12.8%減)

当セグメントの売上高は、198,161千円となりました。イーサネットサービス向けのフィールドテスト用途の「サービステスタ」の販売は前期比で増加しましたが、次世代ネットワークに対応するプロトコルテスタの売上が前期比で減少したことによるものです。

以上の結果、当連結会計年度におきましては、売上高1,064,049千円 (前期比40.8%減)、次世代通信規格であるLTE-Advancedに対応する過負荷試験機の研究開発及び大型・小型基地局を問わず販売が見込める機能試験機の研究開発及び通信分野における新事業の開発を継続した結果、営業損失は322,719千円 (前期は88,272千円の営業利益)、経常損失は206,767千円 (前期は119,112千円の経常利益) となり、当期純損失208,689千円 (前期は114,395千円の当期純利益) となりました。

#### ② 次期の見通し

次期につきましてはの当社グループのセグメント別売上の見通しに関しましては、以下のよう考えております。

(モバイルネットワークソリューション)

LTEのサービスが世界各地で開始され、更なる高速化・大容量化、サービス品質の向上に向けての設備投資が活発に行われております。また、次世代通信規格であるLTE-Advancedの研究開発投資が本格化してくることが予想されます。

当社といたしましては当期に引き続き、LTE対応の基地局テスタの販売を国内及び海外向けに展開してまいります。また、当期より開発を行ってまいりましたLTE-Advancedに対応する過負荷試験機及び大型・小型基地局を問わず販売が見込める機能試験機の販売を行ってまいります。それに加え、社外商材の開拓・販売、WiMAX対応製品の開発・販売を継続してまいります。以上の状況を前提に、当セグメントの売上高は、1,600百万円を見込

んでおります。

(IPネットワークソリューション)

IPテスト関連は、次世代ネットワークに対応した従来製品に加え、新製品の開発・販売及び社外商材の開拓・販売を行ってまいります。以上の状況を前提に、当セグメントの売上高は、250百万円を見込んでおります。

以上により、平成26年7月期の業績予想につきましては、売上高1,850百万円（前期比73.9%増）、営業利益103百万円、経常利益111百万円、当期純利益は108百万円を見込んでおります。

## (2) 財政状態に関する分析

### ① 資産負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における流動資産は2,874,582千円であり、前連結会計年度に比べ21,471千円減少いたしました。主な内訳は、現金及び預金が136,311千円、商品及び製品が161,226千円、原材料及び貯蔵品が79,326千円増加し、売掛金が432,942千円減少したことが主な要因であります。

当連結会計年度末における固定資産は484,071千円であり、前連結会計年度末に比べ196,734千円減少いたしました。投資その他の資産が197,771千円減少したことが主な要因であります。

当連結会計年度末における流動負債は247,513千円であり、前連結会計年度末に比べ24,734千円減少いたしました。買掛金が35,399千円増加し、その他の負債が58,082千円減少したことが主な要因であります。

当連結会計年度末における純資産は3,092,818千円であり、前連結会計年度末に比べ195,271千円減少いたしました。利益剰余金が208,689千円減少したことが主な要因であります。

### ② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は営業活動による支出68,732千円、投資活動による収入182,864千円、財務活動による支出940千円により、資金残高は1,904,228千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその主な要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前当期純損失206,767千円に対し、減価償却費70,344千円、売上債権の減少額432,942千円があり、たな卸資産の増加額283,359千円、未収消費税の増加額40,153千円があった結果、営業活動によって支出した資金は68,732千円（前連結会計年度は163,508千円の収入）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資有価証券の売却による収入701,243千円、投資有価証券の償還による収入314,966千円、投資有価証券の取得による支出805,985千円があった結果、投資活動による収入は182,864千円（前連結会計年度は172,828千円の支出）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

リース債務の返済による支出931千円があった結果、財務活動によって支出した資金は940千円（前連結会計年度は1,120千円の支出）となりました。

なお、当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは次のとおりであります。

決算期	第22期 (平成24年7月期)	第23期 (平成25年7月期)
自己資本比率 (%)	91.9	92.1
時価ベースの自己資本比率 (%)	91.4	69.0
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (%)	2.4	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	2,373.0	—

(注) 自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※株式時価総額は、自己株式を除く発行済株式をベースに計算しております。

※有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち、利子を支払っているすべての負債を対象としております。

※利払いは連結キャッシュ・フロー計算書の「利息の支払額」を使用しております。

### (3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

利益配分に関しましては、①中長期的な成長戦略を遂行するための投資資金確保、②利害関係者に対する安定的な利益配分、③資本効率を考慮した資金運用を利益配分の基本方針としております。

当期につきましては、損失を計上しており、更なる内部留保の充実を図るため、誠に遺憾ながら無配とさせていただきますことになりました。

次期の配当につきましても、今後の厳しい経営環境を勘案し、内部留保の充実と企業体質の強化を図るため、無配とさせていただきますことになりました。

### (4) 事業等のリスク

以下において、当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があるものと考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資家に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。なお、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。本株式に関する投資判断は、以下の特別記載事項を慎重に検討した上で、行う必要があると考えられます。

#### ① 特定業界及び特定顧客に売上が集中していることについて

当社グループでは、特定顧客の需要の変化に影響を受けない企業体質の構築を図るため、当社製品の多様化を進めるとともに、新規顧客の獲得を積極的に進めておりますが、当社製品の主な顧客が通信事業者及び通信機器メーカーの研究開発部門、製造部門等に集中しているため、その需要は、通信事業者及び通信機器メーカーの経営動向、通信ネットワークの開発進捗及び事業展開の方針に大きく影響を受ける可能性があります。

当社グループといたしましては、より幅広い顧客層を獲得すべく市場開拓を進め、事業を行っていく予定であります。この意図に反して、特定顧客、特定事業への集中が緩和されない場合、今後とも特定顧客、業界の業況に強く影響を受ける可能性があります。

#### ② 通信新技術開発段階での受注状況が与える影響について

当社グループのモバイルネットワーク事業の製品は、通信事業者や通信機器メーカーの研究開発部門での新技術開発の初期段階や新規格の制定直後から使用され、その後、その下流に位置する製造部門、保守部門で使用されます。当社グループは、当社製品が最新技術に対応した製品として採用されるべく、通信事業者及び通信機器メーカーの研究開発部門に積極的に働きかけを行います。ここで当社製品が採用されなかった場合、すなわち競合他社の製品の採用が決まった場合、研究開発部門と以後の製造部門や保守部門の受注動向に大きく影響を与えることになり、業績に悪影響を与える可能性があります。

#### ③ 当社製品の納期遅延及び不具合による顧客企業の開発計画への影響について

当社グループは、製品の品質向上と納期厳守に最善の努力をしておりますが、近年、通信業界における技術開発競争は熾烈を極め、開発期間が数ヶ月という極端に短いプロジェクトもあります。このような場合において、納期通り開発が完了しなかったり、当社製品の不具合により顧客の開発計画に影響が発生した場合、顧客との契約内容によっては遅延金請求を課せられ、業績に悪影響を与える可能性があります。

#### ④ 製造中止部品発生に伴う製造への影響について

近年、電子部品の技術革新が急速であるのに対し、当社グループのハードウェア製品は、3年から7年と比較的、製品寿命が長く、当社製品が出荷途中に採用している電子部品の製造が中止される可能性があります。当社は出来るだけ寿命が長く、供給状況が安定した電子部品の採用や入手経路の多様化に努力をしておりますが、仮に当社製品で採用する電子部品が製造中止になった場合、プリント基板(\*2)の開発及び製造を再度行うことを余儀なくされ、製造計画に遅延が発生し、業績に悪影響を与える可能性があります。

#### ⑤ 受注見込みに基づくソフトウェア先行開発について

当社グループでは、比較的大規模な受注が見込める特定顧客から開発依頼があった場合、売買契約を締結する以前の状態においても、顧客との信頼関係に基づいて、製品のソフトウェア部分の開発を開始することがあります。これは、出来るだけ早く開発を開始し、顧客に早く製品を提供することによって、短期間に市場を獲得するための戦略であります。また、仮に受注が発生しなくても、当該特定顧客内の他部門や他社から需要が発生した場合に、当社グループが著作権を所有し、特に制約を受けることなく販売できるようにするためであります。当社グループでは、現在までこのような場合において、特に大きな問題が発生した例はありませんが、今後、同じような状況において、開発を開始した後に、顧客との信頼関係を損なったことにより、売買契約が締結できなかった場合や他の顧客から需要が発生しなかった場合、多大な損失を受ける可能性があります。

⑥ 特許権及び著作権の設定状況について

当社グループは、システムで構成される当社製品について特許の申請を行っておりません。これは、特許の申請により当社グループ技術の公開が行われ、それをもとにした類似の技術が開発されるのを防ぐためであります。また、当社グループは、パッケージソフトウェアで販売する製品を除いては、ソフトウェアについても著作権登録を行っておりません。当社グループのソフトウェアの中核をなす部分は、標準化団体が公開しているプロトコル仕様を通信計測機として利用可能なプロトコルソースコード(\*3)に書き換えたソフトウェアであり、著作権登録で保護することの重要性が低いと思われるためであります。会社設立以来、現在に至るまで、他社の知的所有権を侵害しているとして、当社グループに対してクレームないし訴訟の提起がなされた事実は存在しませんが、今後も知的所有権を理由とするクレームないし訴訟の提起がなされないという保証はなく、訴訟の事態が発生した場合には、当社グループの製品開発速度に影響が生じ、当社グループの業績に悪影響を与えるおそれがあります。

⑦ 内部管理体制について

当社グループは平成25年7月31日現在、情報開示に対応できる内部管理体制を保持しておりますが、少人数に依存した運用を行っているのが現状であります。この状況を改善するために、人員の採用及び育成を行っておりますが、十分な管理体制の確立以前に管理部門の各従業員に業務遂行上の支障が生じた場合や社外流出した場合、代替要員の不在、事務引継手続きの遅延等の理由によって当社グループの管理業務及び株主に対する情報開示業務に支障が生じるおそれがあります。

⑧ 人材獲得について

当社グループの競争力の源泉である製品の性能及び機能は、開発エンジニアの開発力に大きく依存しております。今後とも継続的な成長を維持するためには、開発エンジニアの新規採用は重要であります。また、営業部門及び管理部門においても優秀な人材が必要となります。したがって、今後も人材獲得を経営における最重要課題のひとつと捉え、努力してまいります。計画通りに人材が確保できる保証はありません。当社グループが適正な人材確保に失敗し、重要な役割を担う社員が退職した場合、当社の業務に支障が生じることになります。とりわけ、開発部門の優秀なエンジニアの採用が計画通り進まない場合、製品開発の進捗に大きな影響を与え、業績に悪影響を与えるおそれがあります。

⑨ 海外進出について

当社グループは、世界の通信事業者との販売チャネル及び最先端技術を有する顧客との関係確立を目的とした海外拠点の設立あるいはパートナー企業との業務提携等を行っております。しかしながら、電磁波障害規制(\*4)等の各国・地域に存在する様々な法的規制等に関して予期せぬ新設、改正等が行われた場合、当社グループの業績に悪影響を与えるおそれがあります。また、各国通信事業者の経営動向による次世代通信システムへの移行の遅れ、事業免許交付の遅延、為替レートの変動、ビジネス慣習の違い、その他の不確定要素が多数存在しており、これらは当社グループの業績に悪影響を与えるおそれがあります。

⑩ 新規事業について

現在、当社グループでは、従来からのコアビジネスである通信計測機市場での競争力、ノウハウを活用し、新市場でのプレゼンス構築を行っております。しかしながら、現状では、新市場でのプレゼンスは高くなく、事業上の経験も不足しているうえ、その他の不確定要素の多数の存在は、当社グループの業績に悪影響を与えるおそれがあります。

⑪ 製造物責任等について

当社グループでは、電波法による規制を受ける製品を開発しております。製品及びサービスの品質確保、法的規制等への適合には細心の注意を払っておりますが、不具合が生じた場合や法的規制等に適合していないことが判明した場合、製品の回収や修理が必要となります。また、製品の欠陥が理由で事故が生じた場合、コンシューマ向け製品では、製造物責任法による損害賠償の請求を受ける可能性があり、結果として当社グループに対する社会的信用が低下する等、当社グループの事業及び業績に悪影響を与えるおそれがあります。

⑫ 情報管理について

当社グループでは、製品の販売、サポート等を通じて個人情報、その他事業に関する営業秘密を保持しております。当社グループでは、取得した個人情報等の外部漏洩を防止するため、情報管理に細心の注意を払っておりますが、個人情報等の漏洩が生じた場合、法令違反、取引先企業との守秘義務違反を引き起こす可能性があります。こうした事態が発生した場合、損害賠償請求や当社グループに対する社会的信用の低下等により、当社グループの事業及び業績に悪影響を与えるおそれがあります。

⑬ 大規模災害等について

当社グループ及び当社グループの取引先の事業拠点が地震、洪水、火災等の災害により物的・人的被害を受けた場合、または、社会インフラに著しい被害が生じた場合、開発、製造、調達、物流等の機能が停止する可能性があります、当社グループの事業及び業績に悪影響を与えるおそれがあります。

⑭ 配当政策について

当社グループは①中長期的な成長戦略を遂行するための投資資金確保、②利害関係者に対する安定的な利益配分、③資本効率を考慮した資金運用を利益配分の基本方針とし、通信業界において今後も技術革新が継続し、競合他社との競争激化も予想される状況を踏まえ、積極的な研究開発等、事業基盤を安定させるための投資を行うため内部留保の充実を優先し、原則的に配当を行わない方針としておりました。

しかしながら、内部留保の充実も図られたため、安定的な利益配分を行う環境が整ったとの判断から平成19年7月期、平成20年7月期、平成21年7月期に配当を行いました。

今後につきましては、業績の更なる向上を目指し、財務体質の強化を図り、財務状況と経営成績のバランスを考慮しながら配当を実施していく所存ですが、市場の急変や事業計画の大幅な見直し等により、当社グループの業績が悪化した場合には、継続的に配当の実施を行えない可能性があります。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、平成23年7月期に、継続的な営業損失の発生及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上し、これにより、将来にわたって事業活動を継続するとの継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりました。前連結会計年度（平成24年7月期）は、営業利益及び営業キャッシュ・フローのプラスを計上いたしましたが、当社グループを取り巻く経営環境は依然先行き不透明な状況であり、重要事象等の存在を完全に解消するには至っておりませんでした。しかしながら、財務面に支障はないものとして、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載には至っておりませんでした。

当連結会計年度におきましては、営業損失を計上し、引き続き重要事象等が存在しておりますが、前連結会計年度に引き続き収益構造の改善、販売管理費の削減、研究開発テーマの絞込み等を実施し業績の改善を図ってまいります。資金につきましても、当連結会計年度末時点での現金及び預金の残高は、1,904,228千円であり、財務面に支障はないものと考えております。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載には至りませんでした。



## 2. 企業集団の状況

当社グループは、当社（株式会社アルチザネットワークス）及び子会社1社（阿基捷（上海）軟件開發有限公司）で構成されており、通信計測機等の開発・販売を主たる業務としております。

当社グループの事業内容は次のとおりであります。

### ・モバイルネットワークソリューション

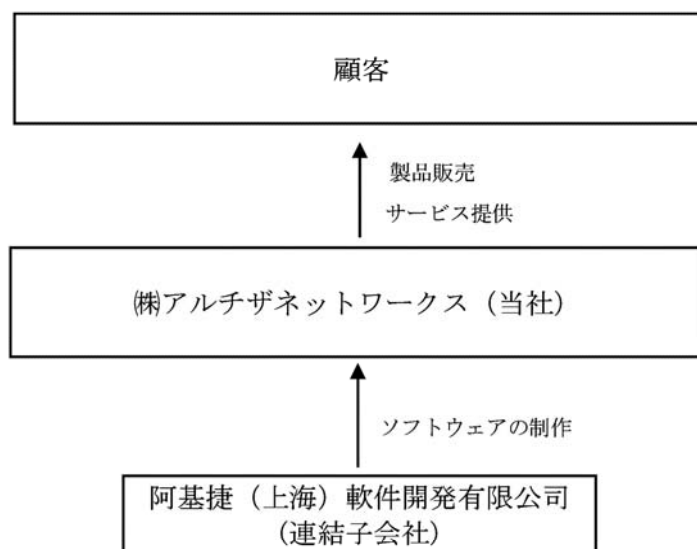
移動体通信分野において「プロトコル・シミュレータ」と呼ばれる通信計測機等の開発・販売を行っており、当社製品は、通信インフラ機器の信頼性及び開発効率を向上させる目的で使用されております。また、子会社は主にソフトウェアの開発業務をしております。

### ・IPネットワークソリューション

当事業では主に、IPネットワーク分野において「プロトコル・シミュレータ」と呼ばれる通信計測機等の開発・販売を行っており、当社製品は、通信インフラ機器の信頼性及び開発効率を向上させる目的で使用されております。

（事業系統図）

当社グループの事業の系統図は次のとおりであります。



## 3. 経営方針

### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、創業以来、『次世代通信インフラを実現するエキスパート集団』として、通信事業者、通信機器メーカー及びネットワーク・インテグレータ等が行う通信インフラ構築を側面から支援することで、通信サービスの品質向上に貢献してまいりました。

「次世代通信インフラの構築に貢献する」を企業のミッションとして掲げ、「技術志向型ベンチャー企業として、ユニークな研究開発、タイムリーな製品・サービスの提供を行い、高収益・効率経営を追求していく」ことを経営の基本方針としていく所存です。

### (2) 目標とする経営指標

成長途上のベンチャー企業であるとの前提に立ち、①中長期的な売上・利益成長、②高利益率の維持、③キャッシュ・フロー重視、以上の3点を目標とすべき経営指標として掲げ、企業価値の最大化を目指しております。

### (3) 中長期的な会社の経営戦略

中期的な経営ビジョンとして、「IMT Advanced & IP Solutions over Wired & Wireless」を掲げ、以下にあげる中期的な経営戦略に基づき、経営ビジョンの実現に邁進しております。

#### ① 次世代移動体通信における新技術仕様に継続対応

グローバルな規模の普及が期待される第4世代移動体通信において、新技術動向に継続対応し、同分野での競争優位性を強化するためのマーケティング・開発体制の確立を行ってまいります。

② 最先端技術分野への継続的な研究開発

技術革新の進展が想定される通信分野において、第4世代の無線技術など最先端技術に対する研究開発活動を積極的に行い、中期的な事業基盤の強化を行ってまいります。

③ 通信分野における新事業の展開

当社グループが強みをもつ通信分野での新事業立ち上げに積極的に取り組み、新たな収益源の確立を目指してまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

通信サービス及び通信機器関連市場は、中長期的には拡大していくことが見込まれていますが、短期的には景気の動向に左右されることに加え、通信業界の価格競争の激化に伴い、設備投資、研究開発投資の抑制、通信機器の全般的な価格下落傾向が継続することが予想されます。

上記の事業環境を前提に、更なる成長を目指していくため、以下の経営課題に取り組んでまいります。

① 第4世代移動体通信技術への対応

当社グループの中心事業である通信テスト分野では、通信規格の世代交代が行われる際に、競争状況に大きな変化が見られることが一般的であると思われまます。国内及び海外の移動体通信業界では、第3世代移動体通信に代わって、第4世代の移動体通信規格でのサービスが開始されております。当社グループでは、この第4世代対応を極めて重要な経営課題と認識し、第3世代と同様の第4世代での実績の確立を目指した研究開発及び商材開拓を積極的に行ってまいります。

② 海外事業の展開

海外事業の成否は、当社グループの中期的な成長において、重要な経営課題と考えております。特に次世代通信方式LTEは、世界標準の規格として採用されており、国内市場において実績のある当社グループのLTE対応製品を、今後も成長の続く中国等のアジア市場や欧米市場を中心に本格的に展開してまいります。

③ 次世代ネットワーク(NGN)分野のソリューション提案力の向上

収益の大半を移動体に依存している当社グループにとって、移動体以外の市場での競争力向上は、収益源の安定化とともに、中期的な事業基盤の強化を図る上で、欠かせない経営課題と考えられます。従前から取り組んでいるIPネットワークソリューション製品の開発、販売を積極的に継続し、ソリューション提案力の向上に取り組まます。

④ 通信分野における新事業の展開

当社グループは、移動体、固定等の通信分野におけるテスト機器を主要な事業領域としてまいりました。当社グループの中期的な成長を継続、促進していくために、当社グループの中核的な能力(コア・コンピタンス)を強く意識した上での新規事業への取り組みが重要な経営課題であると考えております。今後とも、積極的に新規事業の開発に取り組んでいく予定であります。

## 【用語集】

- (\*1) LTE-Advanced  
株式会社NTTドコモが2010年12月より商用サービスを開始したLTEの「進化版」にあたるもの。W-CDMAやLTEの標準化を手がけた3GPPにおいて、3GPPリリース10の一部として詳細仕様の策定が進められている。
- (\*2) プリント基板  
電子部品が実装されるガラス織布エポキシ樹脂（ガラス・エポキシ）製の板のこと。表面には部品の端子接続部をもち、表面及び複数階層内に印刷された接続線によって電子回路を構成する。
- (\*3) プロトコルソースコード  
プロトコルをソフトウェアで実現する場合のソフトウェアソースコードのこと。C言語やC++言語で記述する場が多い。
- (\*4) 電磁波障害規制  
電子機器が発生して他の機器に妨害を与える電磁波を制限すること。北米ではULやFCC、欧州ではCEマーキングが代表的。その他にも各国・地域により様々な法的規制等が存在する。

4. 連結財務諸表  
 (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年7月31日)	当連結会計年度 (平成25年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,767,917	1,904,228
売掛金	890,135	457,193
商品及び製品	201,057	362,284
仕掛品	2,880	440
原材料及び貯蔵品	26,422	105,749
未収消費税等	—	35,312
その他	7,641	9,375
流動資産合計	2,896,054	2,874,582
固定資産		
有形固定資産		
建物	34,892	34,892
減価償却累計額	※1 △24,677	※1 △26,338
建物（純額）	10,215	8,554
車両運搬具	2,327	4,730
減価償却累計額	※1 △129	※1 △1,742
車両運搬具（純額）	2,198	2,987
工具、器具及び備品	710,145	677,714
減価償却累計額	※1 △606,079	※1 △580,485
工具、器具及び備品（純額）	104,066	97,229
有形固定資産合計	116,479	108,771
無形固定資産		
ソフトウェア	12,329	21,074
電話加入権	923	923
無形固定資産合計	13,253	21,998
投資その他の資産		
投資有価証券	519,105	319,514
敷金及び保証金	29,674	31,502
その他	2,293	2,285
投資その他の資産合計	551,073	353,301
固定資産合計	680,805	484,071
資産合計	3,576,859	3,358,654

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年7月31日)	当連結会計年度 (平成25年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	151,673	187,073
未払法人税等	3,724	—
賞与引当金	19,483	21,157
その他	97,365	39,282
流動負債合計	272,247	247,513
固定負債		
繰延税金負債	2,240	4,862
資産除去債務	11,317	11,440
その他	2,964	2,018
固定負債合計	16,521	18,322
負債合計	288,769	265,835
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,359,350	1,359,350
資本剰余金	1,500,547	1,500,547
利益剰余金	964,326	755,636
自己株式	△515,124	△515,124
株主資本合計	3,309,099	3,100,410
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△21,354	△14,379
為替換算調整勘定	344	6,787
その他の包括利益累計額合計	△21,009	△7,591
純資産合計	3,288,090	3,092,818
負債純資産合計	3,576,859	3,358,654

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 8月 1日 至 平成24年 7月 31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月 31日)
売上高	1,798,526	1,064,049
売上原価	※1 1,060,778	※1 421,444
売上総利益	737,747	642,604
販売費及び一般管理費	※2, ※3 649,475	※2, ※3 965,324
営業利益又は営業損失 (△)	88,272	△322,719
営業外収益		
受取利息及び配当金	17,782	71,720
為替差益	74	48,608
保険解約返戻金	11,462	—
雑収入	1,589	1,788
営業外収益合計	30,909	122,117
営業外費用		
支払利息	68	61
投資有価証券売却損	—	791
消費税差額	—	4,841
その他	—	469
営業外費用合計	68	6,164
経常利益又は経常損失 (△)	119,112	△206,767
特別損失		
減損損失	※4 3,252	—
特別損失合計	3,252	—
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失 (△)	115,860	△206,767
法人税、住民税及び事業税	2,300	2,300
法人税等調整額	△835	△377
法人税等合計	1,464	1,922
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失 (△)	114,395	△208,689
当期純利益又は当期純損失 (△)	114,395	△208,689

## (連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年8月1日 至 平成24年7月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失(△)	114,395	△208,689
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,500	6,974
為替換算調整勘定	355	6,443
その他の包括利益合計	3,856	13,418
包括利益	118,251	△195,271
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	118,251	△195,271
少数株主に係る包括利益	—	—

## (3) 連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年8月1日 至 平成24年7月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	1,359,350	1,359,350
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,359,350	1,359,350
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	1,500,547	1,500,547
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,500,547	1,500,547
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	849,930	964,326
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失(△)	114,395	△208,689
当期変動額合計	114,395	△208,689
当期末残高	964,326	755,636
<b>自己株式</b>		
当期首残高	△515,124	△515,124
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	△515,124	△515,124
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	3,194,704	3,309,099
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失(△)	114,395	△208,689
当期変動額合計	114,395	△208,689
当期末残高	3,309,099	3,100,410
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	△24,855	△21,354
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	3,500	6,974
当期変動額合計	3,500	6,974
当期末残高	△21,354	△14,379
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	△10	344
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	355	6,443
当期変動額合計	355	6,443



(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 8月 1日 至 平成24年 7月 31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月 31日)
当期末残高	344	6,787
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△24,865	△21,009
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	3,856	13,418
当期変動額合計	3,856	13,418
当期末残高	△21,009	△7,591
純資産合計		
当期首残高	3,169,838	3,288,090
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失 (△)	114,395	△208,689
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	3,856	13,418
当期変動額合計	118,251	△195,271
当期末残高	3,288,090	3,092,818

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年8月1日 至 平成24年7月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	115,860	△206,767
減価償却費	61,168	70,344
減損損失	3,252	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	221	1,674
受取利息及び受取配当金	△17,782	△71,720
支払利息	68	61
売上債権の増減額(△は増加)	△498,174	432,942
たな卸資産の増減額(△は増加)	411,371	△283,359
仕入債務の増減額(△は減少)	9,984	35,399
未払消費税等の増減額(△は減少)	34,055	△33,819
未収消費税等の増減額(△は増加)	29,909	△40,153
その他	△1,320	△38,097
小計	148,614	△133,494
利息及び配当金の受取額	16,599	71,109
利息の支払額	△68	△61
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△1,636	△6,285
営業活動によるキャッシュ・フロー	163,508	△68,732
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△5,207	△7,512
無形固定資産の取得による支出	—	△17,003
投資有価証券の取得による支出	△201,802	△805,985
投資有価証券の売却による収入	—	701,243
投資有価証券の償還による収入	—	314,966
保険積立金の解約による収入	26,100	—
その他	8,081	△2,843
投資活動によるキャッシュ・フロー	△172,828	182,864
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	△841	△931
配当金の支払額	△278	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,120	△940
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,664	23,119
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△12,103	136,311
現金及び現金同等物の期首残高	1,780,021	1,767,917
現金及び現金同等物の期末残高	* 1,767,917	* 1,904,228

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数1社

阿基捷（上海）軟件開發有限公司

(2) 主要な非連結子会社の名称等

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度に関する事項

連結子会社である阿基捷（上海）軟件開發有限公司の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同社が6月30日現在で実施した決算に基づく財務諸表を使用しております。

ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

② たな卸資産

(イ) 商品及び製品

移動平均法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(ロ) 仕掛品

個別法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(ハ) 原材料

移動平均法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(ニ) 貯蔵品

最終仕入原価法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	8～15年
車両運搬具	5～6年
工具、器具及び備品	4～6年

② 無形固定資産

(イ) 自社利用のソフトウェア

社内における見込利用可能期間（5年）による定額法を採用しております。

(ロ) 市場販売目的のソフトウェア

見込販売数量に基づく償却額と見込有効期間で残存期間に基づく均等配分額のいずれか大きい額を計上する方法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

売掛債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産減価償却累計額は次のとおりであります。

前連結会計年度（平成24年7月31日）

有形固定資産の減価償却累計額は、630,886千円であり、当該累計額には、減損損失累計額が含まれておりません。

当連結会計年度（平成25年7月31日）

有形固定資産の減価償却累計額は、608,566千円であり、当該累計額には、減損損失累計額が含まれておりません。

(連結損益計算書関係)

※1 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 平成23年8月1日 至 平成24年7月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)
売上原価	152,172千円	947千円

※2 主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年8月1日 至 平成24年7月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)
賞与引当金繰入額	4,386千円	4,566千円

※3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成23年8月1日 至 平成24年7月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)
研究開発費	290,016千円	587,969千円

※4 減損損失に関する事項

以下の資産について減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度（自 平成23年 8月 1日 至 平成24年 7月31日）

場所	用途	種類	金額（千円）
本社	事業用資産	工具、器具及び備品	3,252
		計	3,252

当社は、原則として、事業用資産については管理会計の区分に基づきグルーピングを行っております。

取得時に検討した事業計画において、当初想定していた収益が見込めなくなったことから一部の事業用資産について、収益性の低下等により帳簿価額を回収可能価額まで減額し、使用価値をゼロとし、帳簿価額全額について減損損失として特別損失に計上しました。

当連結会計年度（自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日）

該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

前連結会計年度（自 平成23年 8月 1日 至 平成24年 7月31日）

その他有価証券評価差額金：

当期発生額 3,500千円

その他有価証券評価差額金 3,500

為替換算調整勘定：

当期発生額 355

その他の包括利益合計 3,856

当連結会計年度（自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日）

その他有価証券評価差額金：

当期発生額 6,974千円

その他有価証券評価差額金 6,974

為替換算調整勘定：

当期発生額 6,443

その他の包括利益合計 13,418

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年8月1日至平成24年7月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	95,620	—	—	95,620
合計	95,620	—	—	95,620
自己株式				
普通株式	15,193	—	—	15,193
合計	15,193	—	—	15,193

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌期となるもの

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成24年8月1日至平成25年7月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	95,620	—	—	95,620
合計	95,620	—	—	95,620
自己株式				
普通株式	15,193	—	—	15,193
合計	15,193	—	—	15,193

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌期となるもの

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自平成23年8月1日 至平成24年7月31日)	当連結会計年度 (自平成24年8月1日 至平成25年7月31日)
現金及び預金勘定	1,767,917千円	1,904,228千円
現金及び現金同等物	1,767,917	1,904,228

## (セグメント情報等)

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループでは、移動体通信分野とIPネットワーク分野において、主に「プロトコル・シュミレータ」と呼ばれる通信計測機等の開発・販売を行っております。したがって、当社グループは、事業を基礎とした製品別のセグメントから構成されており、「モバイルネットワークソリューション」及び「IPネットワークソリューション」の2つを報告セグメントとしております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失、資産その他の項目に関する情報

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成23年8月1日 至 平成24年7月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
	モバイル ネットワーク ソリューション	IP ネットワーク ソリューション			
売上高					
外部顧客への売上高	1,571,290	227,236	1,798,526	—	1,798,526
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,571,290	227,236	1,798,526	—	1,798,526
セグメント利益	35,114	53,157	88,272	—	88,272
セグメント資産	308,940	28,782	337,722	3,239,137	3,576,859
その他の項目					
減価償却費	59,899	528	60,428	—	60,428
減損損失	3,252	—	3,252	—	3,252

(注) セグメント資産の調整額3,239,137千円は、報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金、投資有価証券等であります。

当連結会計年度（自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
	モバイル ネットワーク ソリューション	IP ネットワーク ソリューション			
売上高					
外部顧客への売上高	865,887	198,161	1,064,049	—	1,064,049
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	865,887	198,161	1,064,049	—	1,064,049
セグメント利益又は損失 (△)	△406,881	84,161	△322,719	—	△322,719
セグメント資産	512,428	18,540	530,969	2,827,685	3,358,654
その他の項目					
減価償却費	66,824	1,049	67,874	—	67,874

(注) 1. セグメント資産の調整額2,827,685千円は、報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金、投資有価証券等であります。

## (1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成23年 8月 1日 至 平成24年 7月31日)		当連結会計年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)	
1株当たり純資産額	40,882円92銭	1株当たり純資産額	38,454円98銭
1株当たり当期純利益金額	1,422円35銭	1株当たり当期純損失金額(△)	△2,594円77銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。	

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年 8月 1日 至 平成24年 7月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)
連結貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	3,288,090	3,092,818
純資産の部から控除する金額(千円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	3,288,090	3,092,818
期末の普通株式の数(株)	80,427	80,427

(注) 2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年 8月 1日 至 平成24年 7月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 8月 1日 至 平成25年 7月31日)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額		
当期純利益金額又は当期純損失金額(△)(千円)	114,395	△208,689
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失金額(△)(千円)	114,395	△208,689
期中平均株式数(株)	80,427	80,427



5. 個別財務諸表  
 (1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年7月31日)	当事業年度 (平成25年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,734,711	1,874,281
売掛金	890,135	457,193
商品及び製品	201,057	362,284
仕掛品	2,880	440
原材料及び貯蔵品	26,422	105,749
前払費用	3,875	3,875
未収消費税等	—	35,312
その他	1,087	3,427
流動資産合計	2,860,170	2,842,564
固定資産		
有形固定資産		
建物	34,892	34,892
減価償却累計額	△24,677	△26,338
建物（純額）	10,215	8,554
車両運搬具	2,327	4,730
減価償却累計額	△129	△1,742
車両運搬具（純額）	2,198	2,987
工具、器具及び備品	709,203	675,014
減価償却累計額	△605,647	△579,302
工具、器具及び備品（純額）	103,556	95,712
有形固定資産合計	115,969	107,254
無形固定資産		
ソフトウェア	12,329	21,074
電話加入権	923	923
無形固定資産合計	13,253	21,998
投資その他の資産		
投資有価証券	519,105	319,514
出資金	10	10
関係会社出資金	42,330	42,330
長期前払費用	2,283	2,275
敷金及び保証金	29,365	29,602
投資その他の資産合計	593,093	393,731
固定資産合計	722,316	522,984
資産合計	3,582,486	3,365,548

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年7月31日)	当事業年度 (平成25年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	156,942	208,309
リース債務	931	945
未払金	19,647	12,300
未払費用	16,118	18,585
未払消費税等	33,819	—
未払法人税等	3,724	—
前受金	23,759	4,200
預り金	2,228	2,576
賞与引当金	19,483	21,157
流動負債合計	276,654	268,074
固定負債		
リース債務	2,964	2,018
繰延税金負債	2,240	4,862
資産除去債務	11,317	11,440
固定負債合計	16,521	18,322
負債合計	293,176	286,396
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,359,350	1,359,350
資本剰余金		
資本準備金	1,497,450	1,497,450
その他資本剰余金	3,097	3,097
資本剰余金合計	1,500,547	1,500,547
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	965,890	748,758
利益剰余金合計	965,890	748,758
自己株式	△515,124	△515,124
株主資本合計	3,310,664	3,093,531
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△21,354	△14,379
評価・換算差額等合計	△21,354	△14,379
純資産合計	3,289,310	3,079,152
負債純資産合計	3,582,486	3,365,548

## (2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年8月1日 至 平成24年7月31日)	当事業年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)
売上高	1,798,526	1,064,049
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	446,959	201,057
当期製品製造原価	496,753	443,817
当期商品仕入高	317,797	138,854
合計	1,261,510	783,728
他勘定振替高	△325	—
商品及び製品期末たな卸高	201,057	362,284
売上原価合計	1,060,778	421,444
売上総利益	737,747	642,604
販売費及び一般管理費	654,113	975,460
営業利益又は営業損失(△)	83,634	△332,855
営業外収益		
受取利息及び配当金	5	10
有価証券利息	17,761	71,690
為替差益	1,237	51,202
保険解約返戻金	11,462	—
雑収入	1,589	905
営業外収益合計	32,057	123,810
営業外費用		
支払利息	68	61
投資有価証券売却損	—	791
消費税差額	—	4,841
その他	—	469
営業外費用合計	68	6,164
経常利益又は経常損失(△)	115,623	△215,209
特別損失		
減損損失	3,252	—
特別損失合計	3,252	—
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	112,371	△215,209
法人税、住民税及び事業税	2,300	2,300
法人税等調整額	△835	△377
法人税等合計	1,464	1,922
当期純利益又は当期純損失(△)	110,906	△217,132

## (3) 株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年8月1日 至 平成24年7月31日)	当事業年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	1,359,350	1,359,350
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,359,350	1,359,350
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	1,497,450	1,497,450
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,497,450	1,497,450
<b>その他資本剰余金</b>		
当期首残高	3,097	3,097
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	3,097	3,097
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	1,500,547	1,500,547
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,500,547	1,500,547
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	854,984	965,890
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失(△)	110,906	△217,132
当期変動額合計	110,906	△217,132
当期末残高	965,890	748,758
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	854,984	965,890
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失(△)	110,906	△217,132
当期変動額合計	110,906	△217,132
当期末残高	965,890	748,758
<b>自己株式</b>		
当期首残高	△515,124	△515,124
当期変動額		
当期変動額合計	—	—

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年8月1日 至 平成24年7月31日)	当事業年度 (自 平成24年8月1日 至 平成25年7月31日)
当期末残高	△515,124	△515,124
株主資本合計		
当期首残高	3,199,757	3,310,664
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失(△)	110,906	△217,132
当期変動額合計	110,906	△217,132
当期末残高	3,310,664	3,093,531
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△24,855	△21,354
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	3,500	6,974
当期変動額合計	3,500	6,974
当期末残高	△21,354	△14,379
評価・換算差額等合計		
当期首残高	△24,855	△21,354
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	3,500	6,974
当期変動額合計	3,500	6,974
当期末残高	△21,354	△14,379
純資産合計		
当期首残高	3,174,902	3,289,310
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失(△)	110,906	△217,132
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	3,500	6,974
当期変動額合計	114,407	△210,157
当期末残高	3,289,310	3,079,152

## 6. その他

### (1) 役員の変動

該当事項はありません。